

説教題：弟子の身分

鍵となる聖句： マタイ 28 : 19 - 20 - 「¹⁹それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、²⁰また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

皆さん、おはようございます。また皆さんにお会いできて嬉しいです。ご存知の方も多いと思いますが、私はオンライン神学校で講義を受けています。今、私が受講しているコースは「弟子」に関するもので、そのコースで非常に興味深いことを学んでいるので、今日はその情報のいくつかを皆さんと分かち合うことにしました。今日の説教は 弟子 です。

まず、こう問いかけたいです：弟子とは何でしょうか？私が聴いているビデオ講義の中で、先生は弟子の定義をこう言っていました：「弟子とは、ある教えや人に従う者、または献身する者のことである。」

弟子とは、ある教えや人に従う者、または献身する者のことである。

私たちはイエス・キリストに従う者です。私たちはキリスト教、つまりこの書物、聖書に記されているイエスとその使徒たちの教えに従う者です。

この弟子の定義をもう一度見てみましょう。今日お話しする情報は、ロゴス・バイブル・ソフトウェアが制作したビデオコースから得たものです。それは、フレデリック・カルドーザ博士が教えている「歴史と実践における弟子」と題されたコースです。カルドーザ博士の弟子の定義をもう少し引用しましょう：

「弟子とは、ある教えや人物に従う者、献身者のことである。基本的に弟子とはそういうものだが、キリスト教では弟子とはキリスト信者のことである。それまでの生き方 - 罪の悔い改めとキリストへの信仰 - から回心し、キリストの教えに従うことを通してキリストのようになることを追求することによって証明される、生けるキリストとの生涯にわたる愛に満ちた関係を始める人のことである。」 [Frederick Cardoza, *ED205 Discipleship in History and Practice*, Logos Mobile Education (Bellingham, WA: Lexham Press, 2016).]

イエスが最初、数人の弟子たちをイエスに従わせるために、どのように召したのかを読んでみましょう。 マタイ 4 章 17 - 22 節の中で、このことを読みます： 「¹⁷この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」¹⁸イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレをご覧になった。彼らは湖で網を打っていた。漁師だったからである。¹⁹イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」²⁰彼らはすぐに網を捨てて従った。²¹そこからなおいられると、イエスは、別のふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。²²彼らはすぐに舟も父も残してイエスに従った。」

イエスの宣教が始まった 17 節で、イエスはすべての人に悔い改めるように、つまり罪から離れるようにと説いている。それが回心の第一歩です。悔い改めとは、文字通り、心を変えることであり、その結果、方向転換、つまり、罪から離れ、真の神とその御子イエス・キリストとの関係へと人生の方向性を変えることを意味します。

そして、イエスが 2 組の兄弟をイエスに従うようにと召されるのが見えます。これは、イエスをご自分に従うようにと召されたこの 4 人の男たちの直接の弟子としての歩みの始まりです。実は、彼らがイエスに会ったのはこの日が初めてではなかったのです。ヨハネの福音書 1 章 35 節から 42 節を読むと、ペテロとアンデレはすでにイエスに会っており、イエスをメシアとして認めていたことがわかります。さて、マタイによる福音書では、ガリラヤ海でのこの場面で、イエスはこの 4 人に長期的にイエスに従うよう呼びかけています。これは彼らの生涯の課題である。まず、師であるイエスに従うこと、そして後に「人を獲る漁師」となること、つまり、福音のメッセージを広め、人々を神の国に導くことです。

マタイによる福音書の終わりまで早送りしましょう。イエスの弟子たちへの最後の指示がここにあります。マタイ 28 : 18 - 20 - 「¹⁸イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。¹⁹それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、²⁰また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

私たちはこれを「大宣教命令」と呼んでいます。行って、すべての国の人々を弟子にしてください。彼らに洗礼を授けなさい。彼らに教えなさい。聖書学者によれば、この箇所の主な動詞は**弟子を作りなさい**という命令だと言います。教会の第一の任務は**弟子を作る**こと、すなわち、すべての国に福音のメッセージを広め、すべての国にイエス・キリストに従う者が生まれるようにすることです。この大宣教命令には、さらに3つの動詞があります：すべての国民に行き、父と子と聖霊の名によって新しいクリスチャンに**バプテスマ**を授け、キリストが命じられたすべてのことを守るように**教え**なければならない。**行きなさい**。**バプテスマ**を授けなさい。キリストが命じられたことをすべて**教え**なさい。しかし、何よりもまず、私たちは**弟子を作る**のです。

それが今日のメッセージのメインピックです：**弟子**。数分前にお話しした講義に戻りましょう。弟子とは、「ある教えや人物に従う者、またはその献身者」という、かなりシンプルな定義をお話ししました。イエス・キリストに従う者。

私が見ていたビデオ講義の中で、カルドーザ博士はディサイプルシップの完全な定義を述べています。以下が彼の定義です：

「弟子とは、生涯にわたって全人格的な変容を個人的に追求し、他の弟子となること、また他の弟子とすることに組織的にコミットしている、志を同じくする信仰共同体の中でそうすることによって、キリストの人格を体現する、繁栄するイエスの弟子となること、またそのような弟子となることである。」²

すごいです。クリスチャンの弟子の人生にとって重要な要素がいくつも詰まっています。その定義をもう一度読んでみましょう：

「弟子とは、生涯にわたって全人格的な変容を個人的に追求し、他の弟子となること、また他の弟子とすることに組織的にコミットしている、志を同じくする信仰共同体の中でそうすることによって、キリストの人格を体現する、繁栄するイエスの弟子となること、またそのような弟子となることである。」

イエスに従う者になる。イエスの信者でいる。キリスト教信仰に改宗するだけではない。成長し続け、イエスについてより多くを学び続ける、キリストの信者.....繁栄するキリストの信者.....としての積極的な生活を続けるのです。

その目的は、キリストの人格を体現することです。「クリスチャン」とは、文字通りには“小さなキリスト”を意味します。使徒の働き 11 章 26 節には、パウロとバルナバがアンテオケで一年間弟子たちを指導したことが書かれています。そして 26 節の最後には、“弟子たちはアンテオケで初めてクリスチャンと呼ばれた”と書かれています。私たちの目標は、キリストのようになることです。

私の弟子の定義に戻ると、これを達成する方法は、“全体的な変容を生涯にわたって個人的に追求すること”です。これについては、このメッセージの後半で詳しくお話しします。

私たちはこれを、“他の人の弟子となり、他の人を弟子とすることに組織的にコミットしている、志を同じくする信仰共同体の中で”行うことになっていることに注目してほしいです。教会に積極的に参加することはとても大切なことです。地方教会とつながっていない“一匹狼”のクリスチャンは健全ではありません。福音のメッセージを広め、より多くの人々をイエスの弟子として神の国に導くために。

先ほど、弟子の定義を読んだことが今日のメッセージのきっかけになったとお話ししました。この定義のどのフレーズにも、もっと詳しく見てみたい聖書の原則がいくつかあります。それでは、この定義をさらに深く掘り下げてみましょう。

パート 1：イエスの弟子となり、繁栄する者となる。

イエスは、ヨハネ 3 章 16 - 17 節で言われます - 「¹⁶神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。¹⁷神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」世を救うことは神の願いであり、それは神の子イエス・キリストを信じることによって達成されます。これが永遠の命を得るための基本的な道です。

ローマ人への手紙 10 章 9 - 10 節で、使徒パウロはこのように書いています - 「⁹なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみ

がえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。¹⁰人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」だけでなく、口でイエスを主と告白すること、つまり人々の前で信仰を告白することです。新しく改宗した人がイエスへの信仰を告白した後、私たちはその人にバプテスマを授けます。

先ほど、マタイの福音書 28 章 18 節から 20 節の大宣教命令を引用しました。ルカの福音書 24 章にも大宣教命令があります。マタイが福音を広める使徒たちの活動に焦点を当てているのに対し、ルカはイエスが言われた福音のメッセージの主要な内容の一部に焦点を当てています。

ルカ 24 章 46 - 48 節 - 「⁴⁶こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、⁴⁷その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。⁴⁸あなたがたは、これらのことの証人です。」

私たちがすべての国々に宣べ伝える福音のメッセージの基本的な内容は、罪からの悔い改めと、イエス・キリストにある赦しです。ギリシャ語で「悔い改め」はメタノイアといい、基本的には「何かを思い直す」という意味です。この文脈では、罪に対する考えを改め、もはや罪を望まず、むしろ罪から離れ、神に向かうことを意味します。

イエスは十字架上で私たちの罪の罰を支払われました。1 ペテロ 2 章 24 節にはこうあります。 - 「²⁴そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」主は私たちの罪のためにペナルティ - (罰金) を支払ってください、私たちは罪に対して死んだのです。 私たちは罪を捨て、義のために生き、神を敬う生き方をすることができます。

あなたはイエス・キリストの弟子になりましたか？自分の罪深さを認識し、罪を悔い改めて神に立ち返りましたか？イエス・キリストにあなたの信仰を置きますか？イエス・キリストの十字架上の死は、私たちの罪のためのいけにえであり、イエス・キリストを信じる信仰によって、私たちは赦しと新しい命を受けるのです。まだそうしていないなら、今日そうしてください。礼拝の後、その方法について、私や教会の役員に相談してください。

それがキリストにおける救いへの道であり、キリストの弟子となる道です。

その後、私たちは霊的成長のプロセスに入ります。私たちはそれを聖化のプロセスと呼んでいます。聖化とは、神のために「分離する」こと、つまりこの世の道から離れ、キリストに自分の人生を合わせることを意味します。

クリスチャンの弟子となった今、私たちは正しく、神を敬う生活を送っています。先ほどの弟子の定義によれば、私たちは“繁栄するイエスの弟子”として生きるのです。

繁栄するイエスの弟子

パート 2：全人格的な変容を生涯にわたって個人的に追求することによって、キリストの人格を体現する、繁栄するイエスの弟子となる。

コロサイ人への手紙 1 章 10 節 - 「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」

主にふさわしく生きなさい.....実を結びなさい.....神を知る知識を増し加えなさい。

テサロニケ人への手紙 第二 1 章 3 節 - “「兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。」

これはクリスチャンの理想である。常に成長し続けること.....神についての知識を深め、互いへの愛を深めること。

私の弟子としての定義にあるように、「繁栄するイエスの弟子」になること。私は時々、自分の人生はどれほど繁栄しているのだろうかと考えることがあります。私はいつもこの理想通りに生きているわけではありません。20代から30代の頃は、神の御言葉やクリスチャンとしての生き方を学ぶことに飢えていました。40代になってからはだいぶ成熟してきましたが、それでも学ぶことは大好きです。

私にとって特別な聖句を紹介しましょう。それは、ブルース牧師にとっても特別なものであることを知っています。というのも、彼は数カ月前のメッセージでこの言葉を引用していたからです。

ペテロの手紙 第二1章5-8節 - 「こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、⁶知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、⁷敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。⁸これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。」

聖書を読むとき、この聖句に出くわすたびに、私は数分間立ち止まり、ここに書かれている各分野で自分がどのように行動しているかを考えます。

クリスチャン生活を送る上で、私たちは勤勉でなければなりません。私はどれほど勤勉であろうかと、時々自問することがあります。

信仰を土台に、道徳的な卓越性を目指す。他の聖書では「徳」と訳されています。キリストを信じる信仰を築いた後、次のステップとしてペテロが重視しているのが徳、道徳的な卓越性であることは興味深いことだと思います。何よりも大切なのは、神を敬い、道徳的にまっすぐな生き方を目指すことなのだ。

そして、次は知識です。神についてもっと学び、神の御言葉を読む必要があります。これは重要なことです。

そして自制心。満足してはいけない。後退してはならない。多くのクリスチャンが後戻りする時を経験します。自制心を保たないなら、そのことは簡単に起こりえます。そのことを覚えておいてください。

そして、自制心を土台にして、忍耐する。クリスチャン生活を送ろうとするとき、多くの試練があるでしょう。自分の内側からも、周囲の世界からも、さまざまな誘惑があるでしょう。私たちは忍耐の人生を送る必要があります。

そして、これらすべてを通して、私たちが目指すのは神々しさだ。神のように。私たちの品性において神のようになること。私たちが神の子であり、神の御子イエス・キリストに忠実な信者であることを世に示す、神を敬う生き方をすることです。

そして、神性から、私たちはますます兄弟のような優しさを実践するようになる。ここでのギリシャ語 *philadelphia* はフィラデルフィヤ=兄弟愛です。

そしてリストの最後には愛、アガペーの愛があります。神の自己犠牲的な愛。これがクリスチャンとしての人格形成の目的です。

8節をもう一度 - 「これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。」

これらの資質は、私たちの中に見られるべきものであり、増していくべきものです。これらはクリスチャン生活の重要な部分であり、これらを持つことは、私たちの生活と宣教において実を結ぶことにつながります。

私のメッセージのパート2のタイトルをもう一度見てみましょう：全人格的な変容を生涯にわたって個人的に追求することによって、キリストの人格を体現する、繁栄するイエスの弟子となる。

今、私が皆さんに説明したこれらの人格的資質は、「キリストの人格を体現する」ために、私たちの人生で身につけるべき資質の一部です。まだ不完全な肉体の中で生きている間は、それを完璧に行うことはできないでしょうが、これは人生において目指すべきものです。

もうひとつ好きな詩を紹介しましょう。

ピリピ人への手紙2章12-13節の中で使徒パウロがこのように言っています - 「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。¹³神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」

この聖句は、救いのために働くと言っているわけではありません。そうではなく、この聖句が意味するのは、救われたからには、神が私たちに望んでおられることをするために努力することによって、クリスチャン生活が続けるということです。先ほど、ペテロの手紙第二1章5節をお読みしましたが、そこにはクリスチャンとしての生活を築くために「あらゆる努力をして」と書かれていました。私たちは素晴らしい神に仕えているのだから、あ

る種の「恐れと震え」をもって、積極的に神的な生活を送り、神が望んでおられる務めを果たそうとします。13節を見てください。私たちのうちに働いておられるのは神であることに気づいてください。私たちは神に対して心を開き、動き出さなければならなりません。神は私たちを力づけ、導いてくださる方であり、神が望まれること、神が喜ばれることを行うように私たちを動かしてくださいます。私たちが働き、神が働き、私たちを力づけてくださるのです。

何年も前、私はある昔の基督教の弟子から興味深いことわざを聞きました。誰が最初に言ったのかは知りませんが、私はこの言葉にやる気を感じたので、皆さんと分かち合いたいと思います。

古代基督教の諺：「現世で得た徳以外は、来世に持っていくことはできない」。このことわざは、物質的な富を来世に持っていくことはできないし、社会的地位や世間が評価するものさえも持っていくことはできないということを思い出させてくれます。私たちが来世に持っていくのは、これまでの人生で培ってきた徳です。神的でキリスト的な品性を身につけること、これが私たち一人ひとりにとって最も重要なことなのです。

もう一度、私の弟子の定義に戻ります：「全体的な変容を生涯にわたって個人的に追求すること」前に指摘したように、これは生涯にわたるものです。そして全人格的な変容の追求です。

変えられること。これは、もうひとつの好きな詩を思い出させます。ローマ人への手紙12章1-2節でパウロが言っています - 「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

特に2節を見ましょう：「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」この世の習慣、自己中心、不道德、無価値で一時的な快樂の追求に合わせてはいけません。その代わりに、変えられなさい。

変えられる。心を新たにすることによって。すべては心から始まります。聖書を読んだり、説教を聞いたり、健全なクリスチャンの本を読んだりして、神の御言葉で心を満たしましょう。これらの御言葉があなたの思考を変容させ、神的で高揚した思考を持つようにさせます。

さて、今日のメッセージの最後に移りたいのですが...

パート 3: 「志を同じくする信仰の共同体の中で、他の人の弟子となり、他の人を弟子とすることに組織的にコミットして、これらすべてを行うこと」

まず指摘したいのは、私たちはそれぞれ、志を同じくする信仰の共同体の中でクリスチャンの弟子としての生活を送っているということです。私たちは共同体の中でこれを行います。私たちは、教会から離れ、キリスト教共同体から離れてクリスチャン生活を送る「一匹狼」ではありません。私たちはお互いを必要としています。

私は、400年前に書かれた詩のことを思い出します。実は詩というほどのものではないのですが、英国国教会の牧師だったジョン・ドンが17世紀に書いたエッセイの中の数行です。これから皆さんに読んでいただくのは、彼が書いた「瞑想録17」と題されたエッセイの中の一節で、これらは最も有名なエッセイの中で最も有名なセリフです:

どんな人間も、それ自体が島ではない;

人はみな大陸の一部であり、大陸の一部である。

一塊の土が海に流されても、ヨーロッパはそれ以下である。

どんな人間が死んでも、私は全人類の一部なのだから、

だから、誰のために鐘が鳴るのか知ろうとは思わないことだ。

誰も完全に一人ではいることはできません。誰もが共同体の一員なのです。共同体のメンバーが一人でも欠ければ、その分共同体は小さくなります。ジョン・ドンは言いました: 「私は全人類と関わっているのだから、誰のために鐘が鳴るのかを知ろうとは思わない。共同体から誰かがいなくなれば、その共同体に属する一人一人が減少する。鐘が鳴り、

人々に行動を呼びかけるとき、その鐘が誰のために鳴るのかを尋ねてはならない。それは汝のために鳴るのだ。

大学時代に暗記した8～10節は、クリスチャンとしての生き方に影響を与えました。これらの一つはヘブル人への手紙10章24-25節です - 「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。²⁵ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

私たちは集うことを止めるべきはありません。私たちは集まり、主とともに歩むそれぞれの歩みを励まし合うべきです。互いに愛し合い、良い行いをするように刺激し合うべきです。私たちは互いを必要とし、地方教会の積極的な一員でいる必要があります。

以前の説教で、私たち一人ひとりがキリストの体である地方教会でどのような役割を与えられているか、つまり私たち一人ひとりに霊的賜物が与えられていることについて、コリント人への手紙 第一12章のいくつかの箇所を紹介しました。コリント人への手紙 第一12章27節 - 「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」7節 - 「しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」 教会にいる一人ひとりに霊的賜物が与えられており、私たち一人ひとりが、教会にいるすべての人のためにその賜物を発揮するのです。

コリント人への手紙 第一12章11-12節 - 「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。¹²ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。」

14-16節 - 「確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。¹⁵たとい、足が、「私は手ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。¹⁶たとい、耳が、「私は目ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。」

21-22 節 - 「そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うこともできません。²²それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。」

かけがえのない存在 皆さん一人ひとりが教会にとってなくてはならない存在です。それが大きなものであれ、小さなものであれ、私たちは皆、キリストの体が円滑に働くために貢献できる何かを持っています。私たちは皆、果たすべき役割を持っているのです。

私が見ているビデオに登場する教授は、コリント人への手紙 第一 1 章 2 節を引用するのが好きです。彼はその中の一節に注目し、次のように引用しています：「私たちは共に聖徒となるように召されています。共に。私たちが互いに高め合い、教会を築き上げるのは共にいるからです。」

最後に、これまで強調してきた弟子の定義を見てみましょう：「...他の人の弟子となり、他の人を弟子とすることに団結してコミットする信仰の共同体」

この信仰共同体、すなわち地方教会は、弟子となり、さらに他の弟子を作ることに献身すべきです。マタイの福音書 28 章 19-20 節の大宣教命令をもう一度見ましょう。- 「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、²⁰また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

行って弟子としなさい。彼らに洗礼を授けなさい。そして、キリストが命じられたことをすべて教えなさい。私たちはこのメッセージを受け取りました。弟子を作り、キリストが命じられたことをすべて教えなさい。皆さんがキリストの忠実な信徒となり、キリストのからだを築き上げる役割を果たすことを祈ります。